

会 議 録

会 議 の 名 称	行田市男女共同参画推進審議会(平成 24 年度 第3回)	
開 催 日 時	平 成 25 年 2 月 18 日(月) 開会:午 前 10 時 00 分・閉会:午 前 11 時 45 分	
開 催 場 所	行田市男女共同参画推進センター 学習室	
出席者(委員) 氏 名	田代美江子、山崎孝子、井上文子、茂木美智代、長原順子、 西山カツ枝、青木敦子、矢本政子、松島弘、	
欠席者(委員)氏名	松本秀夫、山岸泰輔、大野久美子、田島和文	
事 務 局	浪江美穂(課長)、加藤孝夫(所長)、石塚聖子(主査)	
会 議 内 容 (議 事)	(1)平成24年度男女共同参画推進センター事業進捗状況について (2)平成25年度男女共同参画推進センター事業について	
会 議 資 料	・平成24年度実施事業進捗状況(2月 10 日現在) ・平成25年度男女共同参画推進センター事業計画(案)	
そ の 他 必 要 事 項		
会議録の確定	確定年月日	主宰者記名押印
	平成 年 月 日	⑥

発 言 者	会議の経過(議題・発言内容・結論等)
司会(加藤)	開会
会長(田代)	あいさつ
司会(加藤)	資料確認をする。
議長(田代)	・ それでは、議事を進めさせていただく。運営規則に基づき、今日の会議は過半数が出席ということで成立します。会議の公開について、本日の会議は非公開とする内容はあるか。傍聴人はいるか。
事務局(加藤)	・ 非公開とする事項はなく、傍聴人はいない。
議長(田代)	・ 公開ということで次第に従い議事を進行させていただく。 ・ はじめに、議事(1)平成24年度男女共同参画推進センター事業進捗状況について事務局から説明をお願いします。
事務局(石塚)	＜平成24年度男女共同参画推進センター事業進捗状況の報告をする＞
議長(田代)	・ これまでの報告内容に質疑があるか。 セミナーや公開フォーラムの世代、年齢層がわかるか。
事務局(石塚)	・ 男性料理教室では60代位の方で年配者が多く、お仕事講座は、幅広い年齢の方である。ビューティアップ講座は、30代40代の方が1/3である。リーダーステップアップ講座等は、児童・民生委員、自治会女性部長、自治会連合会長が出席している。
西山委員	・ 11月のフォーラムに出席したが、人数が少なかった。地域のリーダーを考えて行うのであれば、防災が叫ばれている中、皆さんに幅広く聞いていただきたい。
議長(田代)	・ 重要な提案ですが、声かけの仕方はどうなのか。
事務局(浪江)	・ 事業として費用対効果を考え、100人規模で、市民と一緒に議論ができるようなテーマで、今回は学習室で実施した。 ・ 民生委員、自治会長に声かけをした。
議長(田代)	・ このテーマで100名定員71名はすごいと思う。 ・ 他にご質問ご意見ご提案とか来年度の企画にも関わることなので、いかがか。
山崎委員	・ 孤独死の現状、生々しいお話を伺えてよかった。
西山委員	・ リーダーさんだけでなく、一般にも広げて生きたい。 ・ 民生委員さんに動員をかける場合、できれば全員を対象にしてい
	ただきたい。

事務局(浪江)	・テーマとは違うが、「地域の支えあい」をテーマに福祉でも問題と しているのでは、この機会に、担当課と協力していきたい。
西山委員	・災害用マップを地域ごとに民生委員と自治会長で高齢者世帯、一 人暮らしなど全部色分けして、見守り活動を地域と連携をとってや っている。
事務局(浪江)	・過疎や高齢化が予想以上に顕著で体力のない自治会があるのでこ の差をどうしようというのが行政課題である。
松島委員	・菅谷地区の役員会で「孤独死、虐待なんか」絶対出さないとみん なに言っている。
山崎委員	・持田の自治会加入率が悪い。
山崎委員	・行田市は、安心・安全ペットボトル、一人暮らしのお年寄りの家 庭に、持病やかかりつけ医や身内の連絡先が書いてあるものをペ ットボトルにに入れて冷蔵庫に保管してあり、救急に対応している。
松島委員	・市職員が受けているハラスメント研修も受けてみたい。
事務局(浪江)	・市役所の職場からということをやっているが、地域活動の中にも 目を向けていきたい。
議長(田代)	・新しいアイデアだと思う。 確かに企業とか大学組織もそうですが、必ずやることになってい る。市民に対してやるのもいい。
議長(田代)	・他になにかありますか。DVの相談はどうか。 専門的なところに繋がったことはあったか。
事務局(石塚)	・1件保健所につないだ事例があった。
山崎委員	・子どもの虐待とストーカーがゼロというのが不思議である。
事務局(浪江)	・V I V Aで受けたことが前提なので、市役所全体で受けているも のとすれば、当然入ってくる。
茂木委員	・相談に来られた方は解決しているのか。
事務局(石塚)	・84件の相談に対して、ほぼ半数が継続している。
茂木委員	・いろいろな講座がありますが、夫婦のことについてもっと来やす い、「夫婦のカウンセリング講座」とか、定期的に開催されればい い。
事務局(浪江)	・来年度からは法律相談とからめて、V I V Aと連携していきたい。
茂木委員	・「孤独死防止」の研修に参加して思ったが、もっと多くの方に内容 の発信ができればいい。
事務局(浪江)	・自治会長の研修では、後追いですが、内容は伝えている。

山崎委員	・ ケーブルテレビでの放送はどうか。
事務局(浪江)	・ ケーブルテレビが市全域に行っていないので、全域の広報ではないという議論がまだあり、行政課題でクリアしないとならない。
議長(田代)	・ 見てくださいというだけではなく、重要な内容なので、ケーブルでも積極的に放映したいと要望したらどうか。
事務局(浪江)	・ 情報発信はしているが、なかなか載せてもらえない。
議長(田代)	・ 審議会としてケーブルでの放映について強い要望が出たということをしてPRしていただきたい。他にいかがか。なければこれについて承認してよいか。＜委員の了承を得る＞
事務局(加藤)	・ 12月の定例議会のなかで消防団員の定員に関する条例の一部改正が上程され、女性消防団員の定員を10名とする答弁があった。
事務局(浪江)	・ 答弁のなかで、第3次行田男女共同参画プランに基づいて女性消防団員を登用するための補正予算が議決された。
議長(田代)	・ ありがとうございます。それでは、前回の会議のなかで防災会議の委員として井上委員が防災会議に参加されたことなので、報告をお願いします。
井上委員	・ 思ったより大規模な会議で、8号委員として新しく入った。 全部で34人で、女性が少ないので30%の目標人数で6人位は増やしてほしいとお願いした。防災計画の修正案の中身が避難所運営を行うため、運営組織には複数の女性を参加させるよう配慮することになった。
議長(田代)	・ 井上委員が入っていただいたので、会議自体活性化している、今後も期待している。 ここまでのところでなにかないか。なければ（2）平成25年度男女共同参画センター事業（案）について事務局からお願いします。
事務局(加藤)	・ ＜平成25年度男女共同参画センター事業計画（案）を資料に基づき説明する＞
議長(田代)	・ それではただいまの案について意見はあるか。今年度に対しての意見にも関連してくるので、こういう企画をやって欲しいという意見はないか。
茂木委員	・ 男性料理教室が3回あるが、仕事を持って子育てをしているお母さんたちは本当に料理が大変で、できれば手際のよい料理教室、女性を対象にやってもらいたい。あと5月に親子対象講座があるが、これは何か。

事務局(石塚)	・今年度は、リズム体操と新聞紙等を使って親子で遊べるものを作った。
山崎委員	・この場合講師の方はどなたか。
事務局(石塚)	・渡辺先生で保育関係の健康体操教室を開いている方、お子さんとお母さんの関係まで見ていただける先生で毎回お願いしている。
山崎委員	・7月の親子料理教室と8月の親子食育講座の大きな違いは何か。食育講座は講座だけか。
事務局(加藤)	・親子料理教室は業者の講師を招いて、親子で料理を作る。8月の食育講座は、料理を作るだけでなく、食育について学習も行った。
山崎委員	・25年度も同じようなスタイルなのか。
事務局(加藤)	・同じ講座を考えている。
議長(田代)	・企画する仕組みはどうなっているのか。
事務局(加藤)	・仕組みは特にない。
事務局(浪江)	・本来であれば市民の方たちの要望を聞いて実施できる活動の拠点や情報発信の拠点となりたい。
議長(田代)	・市民の方が運営委員になって、講座を企画したり、男女共同参画関係の企画を持ってきて、実施できればいい。
事務局(浪江)	・そこが行田の課題である。市民活動、NPO活動も市民を巻き込んで組織をして実行委員会を作って何かイベントをやる、行政に協働を仕掛けていく力が弱いところである。
議長(田代)	・市民活動の推進会議はあるのか。
事務局(浪江)	・ある。矢本委員にもお手伝いいただき、一昨年立ち上げている。
議長(田代)	・活動市民団体登録はやっているのか。
事務局(浪江)	・いままで22団体だったが今年度40団体に拡大している。 やる気のある市民の方も窓口に来てくれるようになった。
議長(田代)	・企画を募集するとか、市民公益活動推進委員会があり、登録団体があるのであれば、そこに男女共同参画的なものはないのか。
事務局(浪江)	・今後、市民の活動を助成するやる気応援助成金みたいな新規事業を考えていきたい。
議長(田代)	・募集するにもお金があるので、計画を立てて、予算を組んでという仕組みが必要だが、やったほうがいい。
事務局(浪江)	・やる気応援助成金のなかで男女共同参画的なものがでてくればV I V Aの講座の一枠として反映できる。
井上委員	・何かやりたいことがあったら浪江課長のところにまず相談にいけ

	ばいいのか。
事務局(浪江) 井上委員	・地域づくり支援課に協働推進担当があるのでお願いしたい。 ・審議委員になる前に茂木委員と二人で、企画した講座を二つやったが予算が取れないとかですごくやりにくかった印象がある。
事務局(浪江)	・講座のご提案も、講座をやって皆さんの識見を高めるだけではなく、それが地域にどれだけ還元できるのかという仕組みがあればいい。自分たちの勉強会だけでは難しい。市民を巻き込んでやっていくようなご提案をしていただければありがたい。
茂木委員	・市民公益活動団体というのは、知らなかった。
事務局(浪江)	・N P O、ボランティア団体などが登録している。団体に対して協働のコーディネートや助成金の情報が届くように登録していただいている。
茂木委員	・地域づくり支援課でいいのか。
事務局(浪江)	・はい、ホームページからでも見られる。
議長(田代)	・あと何かご意見はあるか。今回これに対していろいろ意見がでたが、案に対して承認ということでもいいのか。
事務局(浪江)	・審議会の時期、講座の変更があることを了解し、承認していただきたい。予算も関係するが、予算がなくてもできる範囲のことはやりたい。
議長(田代)	・男性料理教室と親子料理教室が回数的に多いが、女性の料理教室や孤独死の問題もあったが、高齢者問題、虐待に関連した子育て支援など、男女共同参画推進の視点からの講座もできないか。
事務局(浪江) 長原委員	・重い課題として承った。 ・一人親家庭がかなり増えていてそれが虐待D Vと絡んで、どこに相談しても、内縁の夫がいたりすると、支援がなかったりとかで虐待になっていく、そんな問題に対しての講座も必要だ。 あと、V I V Aセミナーの「デートD V防止普及講座」これは一回きりで終わることなく、継続していくべきではないか。 このデートD Vを行田でも防止するというのがメインになってくると思う。今後の子ども達の成長に、また今後の男女平等の中には、重要だと思う。これを何とか連続講座で、まずは中学校の教員、保護者、そこから子ども達に実施したらどうか。
事務局(浪江)	・9月発行の情報紙、進修館高校生と一緒にやって、やはりハッとすることがある、子ども達は「束縛されたい」などと普通に言う

	わけで、知識としてDVとは何かという認識をもっているかどうか肝心。大人達だけでなく、生徒にうまく伝わるようにがんばりたい。
議長(田代)	・先ほど、長原委員が言うようにデートDVに関する講座等の必要性を伝えたい。
事務局(浪江)	・校長会でもっとアプローチしたらよかった。
長原委員	・県の人権教育課、人権推進課でもデートDV防止には力を入れている。女性側の意識が変わらないと正直難しい側面がある。男性にも同様なことが言えるわけで、やはり若いうちに理解を促進しておかなければならない。
議長(田代)	・DVというのは未熟なほど起こる。異性に関心が出てくる中学生が一番いい。
事務局(浪江)	・学校の先生に県のパンフレットを使って授業をやるのはどうか。
長原委員	・授業ができるようにお願いをしている。
青木委員	・パンフレットを子どもが学校からもらってきた。親自体もデートDVという言葉を知らなくて、研修に参加した人は、納得して帰ったので親世代にも必要だ。また、孤独死のことで、民生委員さんも頑張ってくれていて有難い。PTA会長も24校中4人しか女性がいないので、発信する立場の女性からの意見が出せない。
長原委員	・ジェンダーという言葉だけでなく、教育現場で親、保護者にきちんと伝えていく必要が大事。
議長(田代)	・県のパンフレットは、コンパクトな中で必要な情報が本当によく入っているのでそれを利用して、行田でも全学校に配って、講座などを実施したらどうか。
松島委員	・中学校も少ないので配布したらいい。
事務局(浪江)	・3次プランのアンケートを校長会でお願いした。今後も協力要請をする。
議長(田代)	・学校では人権研修を必ずやると思う。PTA合同研修などの中でもできると思う。 - 他にいかがか。
長原委員	・リーダーステップアップ講座のリーダーはなにか。
事務局 (浪江・石塚)	・地域のリーダーになってくれるような方。市民誰でもよい。今回の講座は地産地消の農業団体や地元のNPO団体に声かけし、ゼリーフライでは研究会の方へというかたちで募集をかけた。

事務局（石塚）	・ 講座に参加してくれた方で「今まで食べたことがなかった」と言う人がいた。
議長（田代）	・ セミナーもそうだが、人数を確保しようと思えばある程度集められる内容を考える必要がある。他に質問があるか。
青木委員	・ 情報紙のタイアップはどんなものか。
事務局（石塚）	・ 進修館高校生徒会の２年生にお願いし、内容はアンケートを元に先生との対談形式で意見をまとめた形となっている、今の高校生の考え方を現した感じである。ほかに講座の感想、人材リスト登録に関する募集などを載せてある。
議長（田代）	・ 次の講座に呼ぶためにもレジュメだけでなく感想についても載せていくといい。
事務局（浪江）	・ 孤独死とか男女共同参画だけじゃなくて、セミナーでやったものは写真と集計と年齢構成参加者の意見を箇条書きにして報告はしている。
議長（田代）	・ 今まで出てきた意見を吸い上げていただくかたちで、来年度の計画について承認するという事でよろしいか。 ＜委員の了承を得る＞ では、（３）その他について事務局から何かあるか。
事務局（加藤）	・ 審議会の日程を７月２５日前にやりたい。
議長（田代）	・ 委員の皆さんよろしいか。 ＜了承を得る＞ ・ 積極的な意見がでてありがたい。以上ですべての議事を終了する。 これをもちまして、議長の任を解かせていただく。
山崎副会長	・ 閉会あいさつ